

## 第八回シンポジウムの開催にあたって

中国第一歴史檔案館館長 邢永福

ご臨席の皆さま、本日、私たちは二〇〇三年十二月の中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会の中琉歴史関係学術交流に関する協議書に基づき、ここ北京において第八回中国・琉球交渉史に関するシンポジウムを開催いたしました。日中両国の研究者は本シンポジウムにおいて互いに学びあい、友好を深めるといふ趣旨のもと北京に集い、共に中琉関係史の研究を推し進めることとなります。まず、中国第一歴史檔案館の全職員を代表しまして、遠くよりお越しになりました沖縄県教育委員会教育長仲宗根用英氏をはじめ、会議にご出席のすべての日中の研究者、ならびに来賓のみなさまに熱烈なる歓迎と心からの感謝の意を表します。そして第八回中国・琉球交渉史に関するシンポジウムが、滞りなく開催される運びとなったことに祝意を表します。

中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会が一九九一年に覚書を交わして以来、私たちはこれまでに七回のシンポジウムを開催し成功させて来ました。この十五年間、日中の研究者が交流し互いに学びあい、討論を重ねながら中琉関係史の研究を促進し、友好と相互理解を深め、たゆみなく中琉歴史文化交流の領域を拡大し続け、大きな成果をおさめてまいりました。

これまでの七回のシンポジウムで、日中両国の研究者が四十八篇の論文を発表しましたが、その内容は中琉政治関係から、経済・貿易の交流、文化交流、宗教及び信仰、冊封制度、貢使による朝貢、官生の生活、海難救助、文書制度に至るまで多岐にわたっています。これらの論文はまさに両国研究者の汗と辛苦の結晶であり、中琉間の友好交流史への理解と探求の積み重ねであると言えます。中琉関係史研究がこのように広がりど深みを増したことが、双方の研究者の交流を推し進め、研究の更なる促進や、より一層掘り下げた史料の発掘に対して、きわめて重要な意義と大きな影響を与えてきました。

過去十五年間、中国第一歴史檔案館は所蔵する中琉関係檔案史料の出版委託を受け、相次いで『清代中琉関係檔案選編』『清代中琉関係檔案続編』『清代中琉関係檔案三編』『清代中琉関係檔案四編』『清代中琉関係檔案五編』、『清代中琉関係檔案六編』『清代琉球国王表奏文書選録』等、七冊の檔案史料を出版しました。それらにはあわせて三千余件の檔案が収録されています。現在編集出版中の『中琉歴史関係檔案』は「タイトル―日付―提要―檔案原本（原史料）―出典」という形式で編集しており、檔案史料の活用・研究がさらに便利になっています。現在すでに三冊の『中琉歴史関係檔案』が出版されており、今後さらに三十冊以上を出版する予定です。これらの檔案史料は中国と琉球の友好交流の歴史的な証（あかし）であり、中琉関係史を研究する上で貴重な第一次資料であり、かつ重要な参考価値と史料としての研究価値を併せ持っています。『中琉歴史関係檔案』の出版は、利用者にとって檔案史料の活用と研究をさらに便利にしているだけでなく、中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会がより一層協力しあった成果であると言えます。

中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会がこの十五年の間に行った双方の研究者の派遣・訪問交流は、いよいよ

百人を超えました。それらのことが学術交流を促進し、より一層の相互理解につながり、ひいては中国国民と沖縄県民の交流と友情の架け橋となつていけると言えるでしょう。学術シンポジウムがそのすばらしい成功例の一つです。このような定期的な学術交流制度は、日中両国の歴史研究者にとって相互研究と交流の一つの重要な場であり、双方の友情と協力をさらなる高みに推し進めてくれるものです。

皆さま、五〇〇年も前、あの広大な太平洋ですら私たちの祖先の交流を阻むことはできませんでした。かれらは困難をおおそれず遠く海を渡り、中国と琉球の人々の友好交流の一頁を開き、その探求と苦難を共にした歴史を記録しました。そして今日の私たちも、中国と沖縄の人々のすばらしい友好交流の一頁を綴り続け、五〇〇年以上にわたって共に築いてきた友好関係と友誼の伝統を受けついでいるのです。

最後に第八回中国・琉球交渉史に関するシンポジウムの成功を祈念し挨拶いたします。

二〇〇六年十一月十三日

(翻訳 喜納ひとみ)